

# 平成29年度学校自己評価システムシート (県立八潮高等学校)

目指す学校像	「清純 真摯」の校訓のもと、社会の中で力強く生きる力を育てる学校
--------	----------------------------------

重点目標	1 基礎学力の向上を図り、より高い進路希望実現を目指す。 2 部活動への積極的な参加を促し、生徒の行動力・実践力を高める。 3 保護者・地域との連携を強化し、生徒募集の安定化を図る。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	11名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価				
年 度 目 標			年 度 評 価 (1月31日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	○昨年度学力向上委員会が発足し、今年度から特伸クラスが発足した。特伸クラスと他の普通科クラス・体育コースの学力向上の具体的な成果を出していく必要がある。	・生徒の基礎学力を定着・向上させる。	①学力向上委員会を中心に、昨年度策定した特伸クラスの指導計画を学年や教科等で協力し推進していく。 ②基礎学力向上のため、生徒個々の目標にあわせた漢字検定・英語検定・情報処理検定の資格取得を推進する。 ③企画委員会等で学力向上や学び直しの取組について情報共有を図り、学年や教科での実践を全校の取組に発展させる。	①指導計画に基づいた特伸クラスの運営がなされたか。 ②漢字検定・英語検定・情報処理検定の受験状況と合格状況が上昇したか。 ③企画委員会等で情報共有を図り、学校全体の取組へと発展させることができたか。
	○今年度からスタートした特伸クラスにおいて学力向上の伸長と難関進路の実現の具体的な成果が必要である。	・難関な進路希望(就職は事務系・公務員等、進学は中堅以上の大学・短大等)を増加させ、進路希望実現率100%を目指す。	④進路指導部を中心に、質の向上をめざす進路指導計画を策定する。また、課題調査を学期当初に行い、評価結果を生徒に還元する。 ⑤学力向上委員会と教育課程委員会で連携し、基礎学力向上とより難関な進路実現に向けた教育課程等の実施方法を検討する。	④難関進路実現をめざす進路指導計画を策定し、希望進路実現者を増加できたか。 ⑤学力向上や難関進路実現に向けた教育課程の実施方法等の検討に取り組むことができたか。
2	○近年は従来から活動顕著な運動部活動に加え、軽音楽部等の文化部が成果をあげてきている。こうした成果がすべての部活動に波及し、校内の活性化が図れるよういっそうの改善が必要である。	・部活動のさらなる活性化を図る。	①生徒全員を部に所属させ、活動させる。 ②中高連携委員会・教務部を中心に部活動大会結果等の広報活動拡大を図る。	①部活動の実質活動人数が100%に近づいたか。 ②部活動大会結果等の広報が定期的に実施できたか。
	○生徒は落ち着いた生活をおくり、問題行動を起こす生徒は減少傾向にあるが、不明確な理由で欠席が増加し、転退学に至る生徒が増加傾向にある。これらの生徒により丁寧に指導し、生徒異動件数を減らしていく必要がある。	・生徒の異動件数を減らす。	③生徒との面談を積極的に行い、課題のある生徒は教育相談委員会やスクールカウンセラーを活用するなど教育相談活動の充実を図る。	③生徒異動件数を減らすことができたか。
3	○学校説明会への参加者は増加しているものの志願倍率の上昇に至らなかった。入学生の中には学校説明会や校内見学の際の本校生の様子や挨拶に好印象をもち受検を志したとの声がある。この点を踏まえ、中学生に本校に足を運んでもらう機会(学校説明会や体験入学等、文化祭等の学校行事)を積極的に広報する必要がある。	・地域の信頼を得た生徒募集を実現させる。	①中高連携委員会を中心に学校案内の内容を改善する。 特伸クラス、進学クラス、教養クラス、体育コースそれぞれの魅力を明確に説明できる内容を設定する。 ②管理職を含む全教職員による中学校訪問に加えて、2年生による母校訪問を実施し中学校に本校の教育活動の成果を積極的に発信する。塾訪問も継続実施する。	①② 地元地域からの入学者の割合が6割を超えたか。
				①地元根ざした学校づくりを進めている。従来からの体育コース・教養クラス・進学クラスに加えて、特伸クラスを設けたことで、更に生徒の個性を生かし、それぞれの進路希望に、より対応できるようになった。 ②地元根ざした学校を目指すためには、地元地域からの入学者の増加は不可欠である。従来からの中学校との連携事業(異校種体験・出前授業等)の一層の充実を図ることはもちろん、学校説明会への参加者を確保するための中学校・塾訪問、生徒の母校訪問、さらには小学校との連携事業等、本校の良さを地元地域に広報し、地元地域に信頼される学校づくりを進め、地元地域からの入学者増加を図る。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成30年1月31日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・特伸クラスの来年度の成果に期待している。基礎力診断テストの結果から動画視聴教材や朝学習の成果を確認できた。授業では教科毎に生徒実態に即した学習指導の工夫が行われていることを評価したい。 ・特伸クラス以外のクラスへの指導について、「学び直し」の更なる充実により学力向上を図ってほしい。 ・保護者アンケートでは資格取得の充実を期待する声が多かった。受験者数の増加や受験機会の拡大を図る必要がある。	
・学力向上委員会の先進校視察や教育課程委員会における教育課程の整備の特伸クラスの指導に活かしてもらいたい。進路指導部による研修会での今後の指導計画と成果に期待している。	
・全国・関東大会に毎年出場しているが、体育コース設置校であり、オリンピックに選手として出場することを期待している。(役員での出場はある) ・中学校の部活動との合同練習をこれまで以上にすすめ、部活動の活性化を図ってほしい。	
・中途退学者の更なる減少のため、今年度からの取組である特別支援教育巡回支援員やスクールカウンセラーによる効果的な生徒への支援の充実をすすめてほしい。 ・担任や部活動顧問との連携により、対象生徒の早期発見や支援に向けて組織的取り組みを進めてもらいたい	
・従来は生徒指導の充実を期待する保護者が多かったが、保護者アンケートの学校への期待は進路実現や学力向上が上位を占めている。地域に根ざした学校づくりをすすめる観点から保護者や生徒の希望を踏まえた教育活動の充実を図る必要がある。 ・従来からの中学校との連携事業の充実に加え、小学校との連携を図るってほしい。体育コースの生徒によるスポーツ指導や普通科生徒による学習支援など、小学校との交流が地域へのPRにつながるのではないかと。	